

# コニカミノルタグループ 2005年3月期 第1四半期決算説明会

---

2004年 8月 4日

コニカミノルタホールディングス株式会社

常務執行役 本藤 正則

## ● 本資料の記載情報

本資料の前年度実績については旧コニカと旧ミルタの合算値を使用しております。

## ● 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料で記載されている業績予想、将来予想は現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。

# コニカミノルタグループ決算概要



【億円】

	a 05.3 1Q 実績	b 04.3 1Q 実績	a/b 伸張率	c 05.3 1Q 計画	a/c 達成率
売上高	2,620	2,557	102.5%	2,634	99.5%
売上総利益	1,167	1,163	100.3%	-	-
営業利益	170	196	86.7%	160	106.3%
経常利益	171	205	83.4%	125	136.8%
税前利益	161	203	79.3%	90	178.9%
当期純利益	72	113	63.7%	45	160.0%

EPS(円) 13.64

P / L為替レート(円)			増減		増減
US \$	109.8	118.5	8.7 円高	105.0	4.8 円安
EURO	132.3	134.7	2.4 円高	127.0	5.3 円安

# 決算要約



## 業績概況

円高の影響と統合費用や暖簾代の発生で、前年比減益であるが、この影響を排除すればほぼ前年並である。今年度は「統合基盤整備期」と位置付け、事業ポートフォリオ経営の実践と統合効果の早期実現化を目指しており、個別の各事業も概ね計画通りに推移している。

### ポイント

- 情報機器 : 注力分野のカラーMFP・カラーLBPが引き続き好調。モノクロ中高速機も堅調。
- オプト : 統合シナジー効果により、売上・利益とも前年比約3割増。
- フォトイメージング : フィルム・印画紙などフォト事業はアジアで数量確保。一方、事業環境が厳しいデジタルカメラは引き続き損失を計上するが、ほぼ当初計画の範囲内に収まる。

課題 : FCF改善(含在庫)及びカメラ事業の構造改革

## 統合関連

新人事制度導入(管理職:04年7月、一般:05年4月)に向けた取組みの最終段階。  
人員削減は順調に進む。04年度は、特に情報機器販社のIT統合を完了させ、直販拠点の再編・集約に注力。

# セグメント別 売上高・営業利益



	売上高					営業利益				
	05.3 1Q 実績	04.3 1Q 実績	伸張率	05.3 1Q 計画値	達成率	05.3 1Q 実績	04.3 1Q 実績	伸張率	05.3 1Q 計画値	達成率
情報機器	1,370	1,440	95.1%	1,370	100.0%	149	140	106.4%	120	124.2%
オプト	223	172	129.7%	210	106.2%	39	30	131.6%	35	111.4%
フォトイメージング	719	636	113.1%	720	99.9%	20	14	-	17	-
メディカル&グラフィック	281	278	101.2%	310	90.6%	12	24	50.7%	17	70.6%
計測	12	23	-	24	-	3	4	79.4%	5	60.0%
H D他	15	8	-	0	-	13	16	-	0	-
グループ計	2,620	2,557	102.5%	2,634	99.5%	170	196	86.8%	160	106.3%

# セグメント別 特殊要因

売上高	【億円】						
	05.3 1Q	04.3 1Q	a 増減	b 為替影響	c 決算期変更	d 両社取引	a-(b+c+d) 実質増減
情報機器	1,370	1,440	-70	48	0	62	40
オプト	223	172	51	3	0	0	54
フォトイメージング	719	636	83	11	138	0	44
メディカル&グラフィック	281	278	3	7	0	0	10
計測	12	23	-11	0	0	0	11
HD他	15	8	7	0	0	0	7
<b>計</b>	<b>2,620</b>	<b>2,557</b>	<b>63</b>	<b>70</b>	<b>138</b>	<b>62</b>	<b>57</b>

営業利益	【億円】						
	05.3 1Q	04.3 1Q	a 増減	b 為替影響	c 統合費用	d 暖簾代	a-(b+c+d) 実質増減
情報機器	149	140	9	7	4	10	31
オプト	39	30	9	3	1	1	14
フォトイメージング	20	14	34	10	1	1	23
メディカル&グラフィック	12	24	12	3	0	0	8
計測	3	4	1	0	0	0	1
HD他	13	16	3	0	1	0	3
<b>計</b>	<b>170</b>	<b>196</b>	<b>26</b>	<b>23</b>	<b>7</b>	<b>12</b>	<b>16</b>

1円の変動に対する営業利益への影響額 (年間)

US \$	約 7億
EURO	約 11億

# 販管費の増減

【億円】

	05.3 1Q 実績	04.3 1Q 実績	増減
	998	967	31
広告宣伝費	72	50	22
労務費	387	420	33
研究開発費	158	141	17
暖簾代償却	15	2	13
その他	366	354	12

販管費における為替影響額 : 2億円(実質33億円の増)

# 営業外収支増減

【億円】

	05.3 1Q 実績	04.3 1Q 実績	増減
	2	9	7
受取利息・配当金	4	3	0
為替差益	2	19	17
その他	27	24	2
<b>営業外収益計</b>	<b>32</b>	<b>47</b>	<b>15</b>
支払利息・社債利息	15	22	7
棚卸資産処分損	1	2	2
その他	14	13	1
<b>営業外費用計</b>	<b>30</b>	<b>38</b>	<b>8</b>

# 事業概況 (情報機器)



## 事業概況

実質の売上高は微増だが、カラー化/高速シフトによりプロダクトミックスが改善し収益は向上

## MFP事業

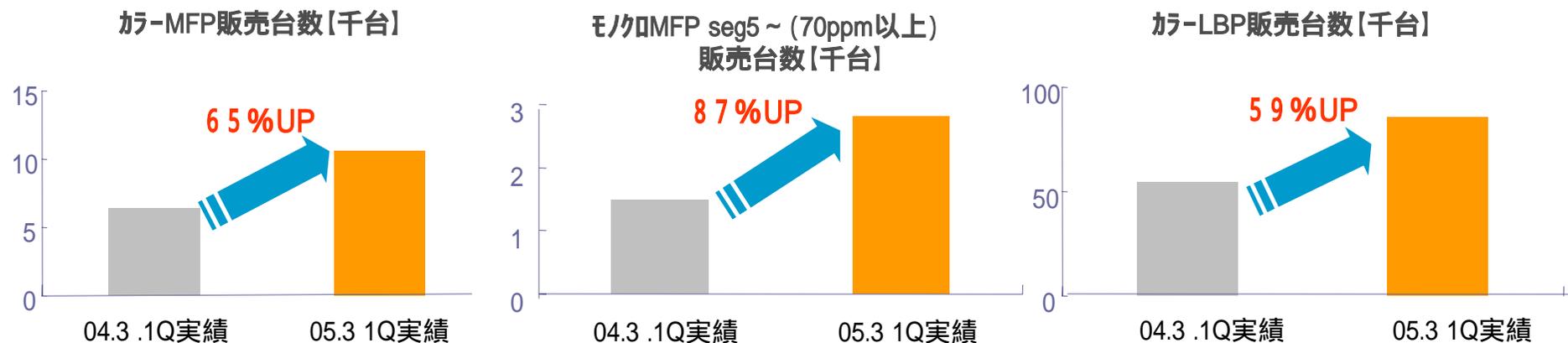
カラーMFPの戦略商品「bizhub C350」の販売が全世界的に好調。

モノクロMFPは高速領域 (Seg5) での販売が前年同期比大幅増。モノクロMFP全体でも4%増加と堅調。

## プリンタ事業

A4低速カラーLBPの販売が海外市場・OEM中心に引き続き好調に推移。

## 注力分野の売上数量



# 事業概況(オプト)



## 事業概況

統合シナジーが発揮され、全ての事業領域で前年同期を上回る実績。

### 光ピックアップレンズ

DVD向け販売が順調に拡大。

### DSC用レンズユニット

カムコーダ用途の販売は減少したが、DSC向けで大幅増。

### 携帯電話向けレンズユニット/カメラユニット

高画素・高機能モデルを中心に順調に販売を伸ばす。

### 液晶ディスプレイ用フィルム

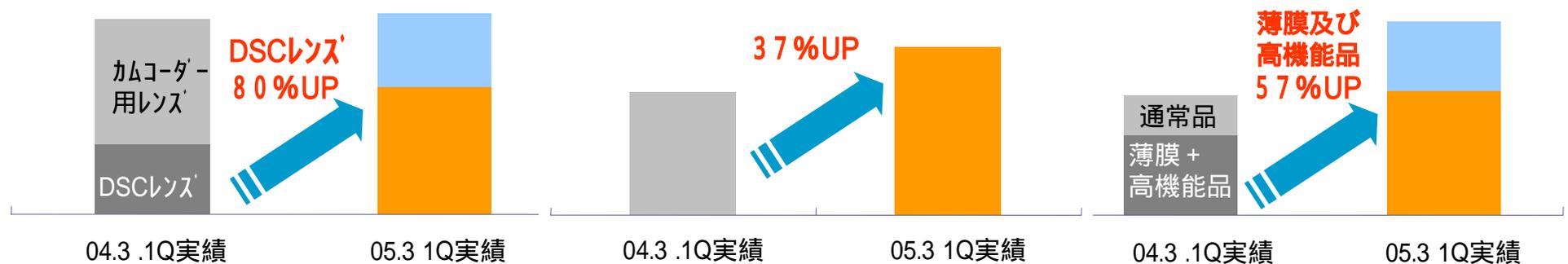
高機能フィルムの販売が好調に推移。売上・利益とも大きく事業収益に貢献。

## 注力分野の売上数量

DSC用レンズユニット販売数量【指数】

携帯電話用レンズ/カメラユニット販売数量【指数】

液晶ディスプレイ用部材販売数量【指数】



# 事業概況(フォトイメージング)



## 事業概況

フォト事業はフィルム・印画紙・ミニラボ機を中心に堅調に推移したが、デジタルカメラは厳しい事業環境が続く。

## フォト事業

カラーフィルム・印画紙は、日米欧市場での落ち込みをアジア他地域でカバーし、前年並みの数量を維持。

ミニラボ機は、「R1 Super」の販売好調により大幅増。

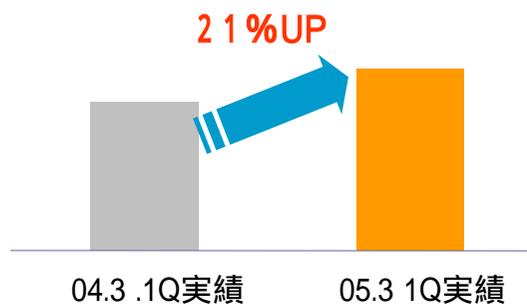
インクジェットペーパーもフォトライク品を中心に堅調に推移。

## カメラ事業

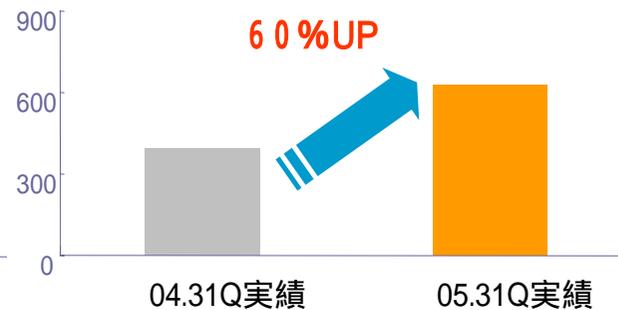
各国市場とも引き続き価格競争が激化しデジタルカメラの採算とれず。但し、ほぼ計画の範囲でおさまる。

## 注力分野の売上数量

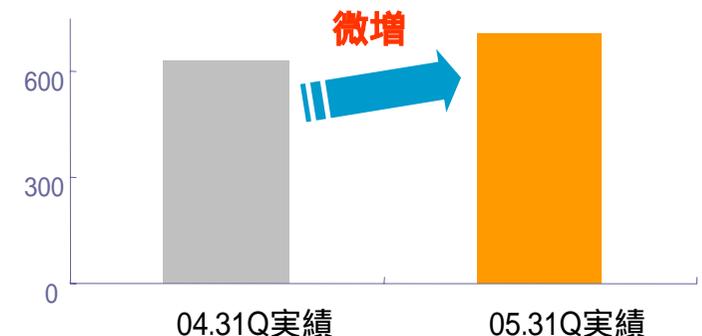
インクジェット用ペーパー販売数量【指数】



デジタルミニラボ販売台数【台】



DSC販売台数【千台】



# 事業概況(メディカル&グラフィック、計測)

## 事業概況

### メディカル&グラフィック事業

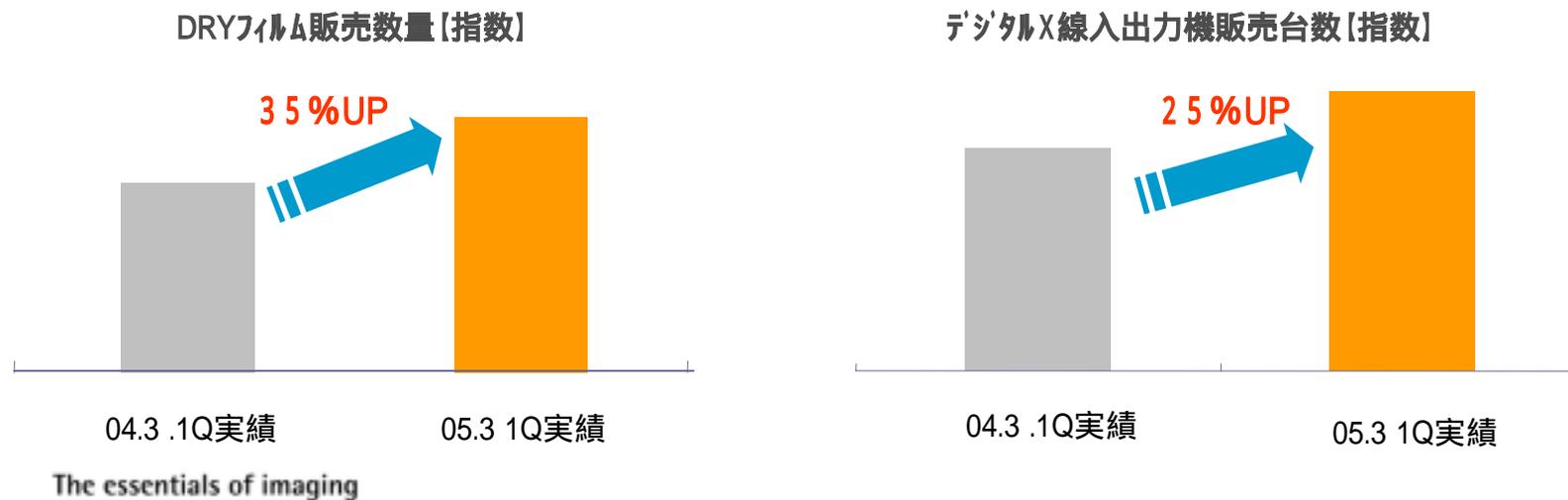
医療分野では、デジタル対応の機器販売が好調に推移し、ドライフィルムへの販売シフトも進む。  
印刷分野では、アジアなど海外市場は強化したが、国内の落ち込みをカバー出来ず。

### 計測機器事業

フラットパネルディスプレイ業界向けの色計測機器の販売が好調に推移。

統合後は売上高の集計区分が変わり、見かけ上の売上高は減少したが実態は堅調に推移

## 注力分野の売上数量



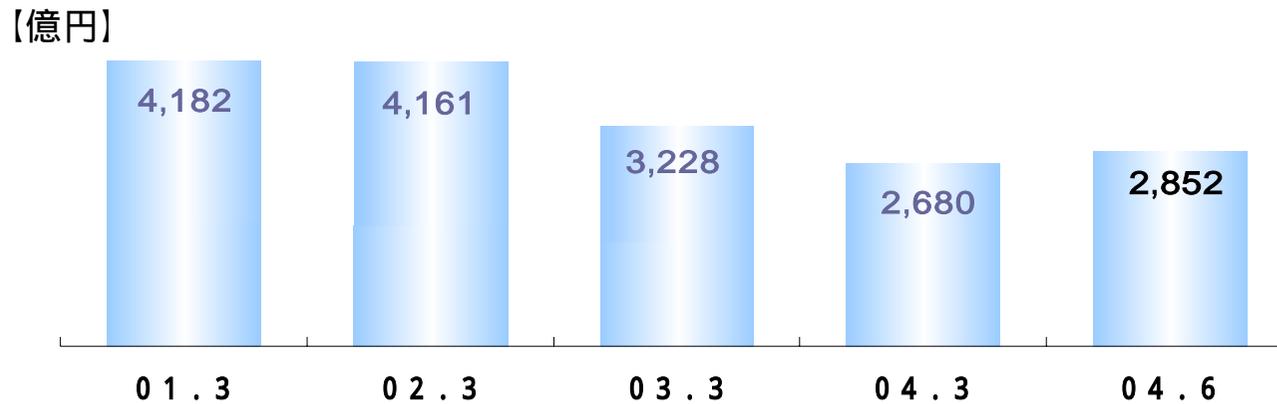
# 連結キャッシュフロー



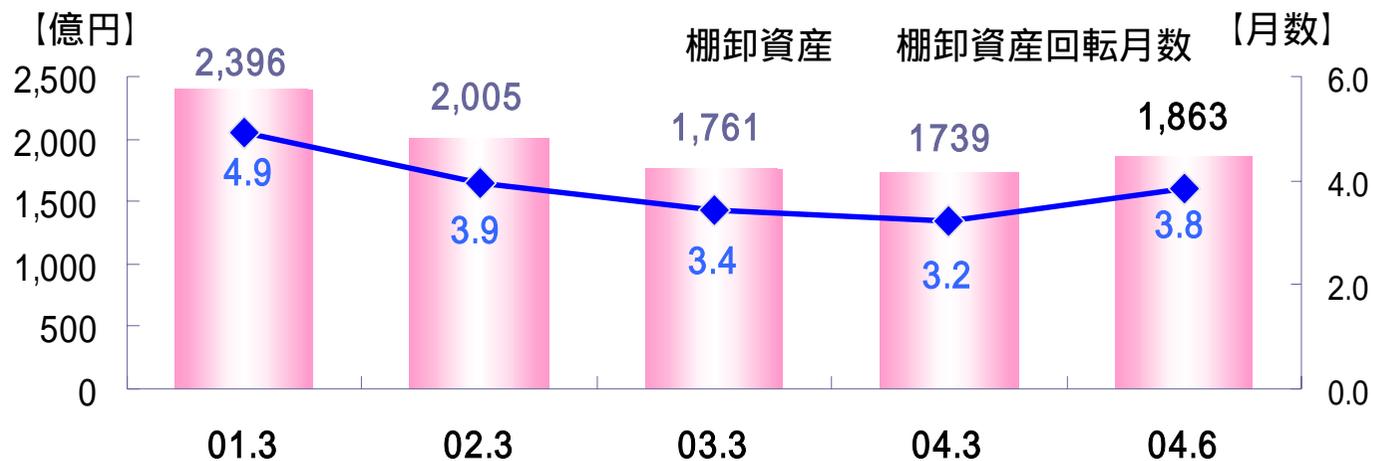
	【億円】		
	05.3 1Q	04.3 1Q	増減
税金等調整前当期純利益	161	203	41
減価償却費	120	123	3
運転資本増減他	336	239	97
<b>営業活動によるCF</b>	<b>54</b>	<b>87</b>	<b>141</b>
<b>投資活動によるCF</b>	<b>152</b>	<b>57</b>	<b>95</b>
<b>+ FCF</b>	<b>206</b>	<b>30</b>	<b>236</b>
借入金・社債の増減	150	4	146
配当金の支払額	25	24	1
その他	0	8	7
<b>財務活動によるCF</b>	<b>124</b>	<b>28</b>	<b>152</b>

# 有利子負債・棚卸資産

## 有利子負債残高の推移



## 棚卸資産及び棚卸資産回転月数の推移



棚卸資産回転月数 = 合算棚卸資産の期首・期末平均 ÷ (1ヶ月平均売上原価)

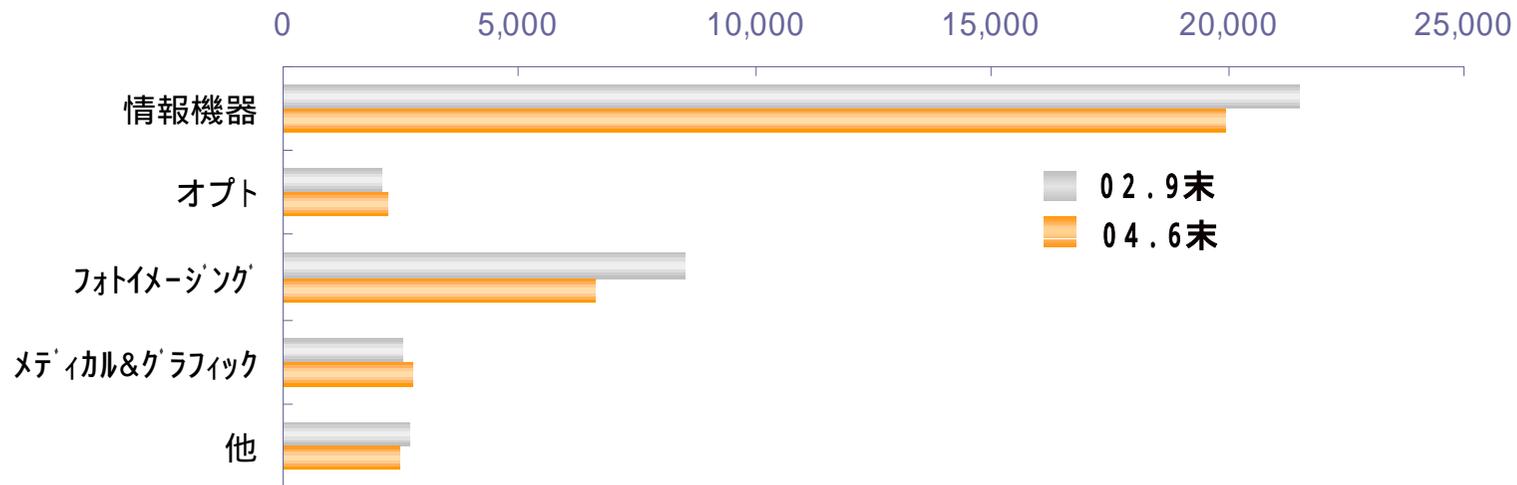
# 連結人員

## 連結人員の推移

		(統合中計公表値)			
02.9 末実績	04.3末	04.6 末	05.3末	06.3末	
37,300	35,200		33,600	32,600	
計画	2,100		3,700	4,700	
	34,710	34,065			
実績	2,590	3,235			

6割弱が国内人員

## 各社別増減(02.9末 vs 04.6末)



# 統合費用

			【億円】
		1Q実績	上期(5.21公表)
販売管理費	7	移転・IT・広告宣伝他	46
営業外費用	1	パッケージ廃棄他	25
特別損失	4	人員合理化他	22
統合費用計	12		93

別途、暖簾代償却費12億円あり

# 2004年度上半期 業績予想



	1Q実績	上期 (5.21公表値)	【億円】
売上高	2,620	5,500	
営業利益	170	335	
経常利益	171	260	
当期純利益	72	95	

為替レート	US \$ 109.8	105
	EURO 132.9	127

## 参考：03年度Q別段階利益

	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
売上高	2,557	2,859	5,416	2,821	2,999	5,820	11,235
営業利益	196	204	400	183	149	332	732
経常利益	205	80	284	153	87	240	525
当期純利益	113	39	152	106	64	42	193

# 2004年度上半期業績予想 - セグメント別



## 売上高

	05.3 予想		04.3 実績	
	1Q実績	上期(5.21公表値)	1Q	上期
	情報機器	1,370	2,850	1,440
オプト	223	450	172	393
フォトイメージング	719	1,500	636	1,382
メディカル&グラフィック	281	650	278	588
計測	12	50	23	49
HD他	15	0	8	21
<b>合計</b>	<b>2,620</b>	<b>5,500</b>	<b>2,557</b>	<b>5,416</b>

## 営業利益

	05.3 予想		04.3 実績	
	1Q実績	上期(5.21公表値)	1Q	上期
	情報機器	149	240	140
オプト	39	85	30	66
フォトイメージング	20	15	14	19
メディカル&グラフィック	12	35	24	47
計測	3	10	4	9
HD他	13	20	16	36
<b>合計</b>	<b>170</b>	<b>335</b>	<b>196</b>	<b>400</b>

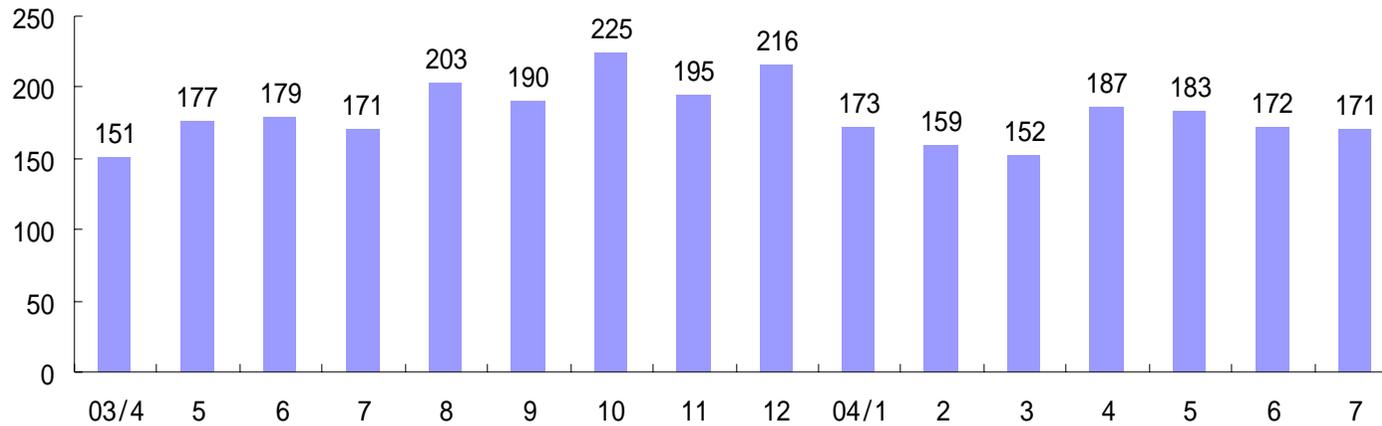
	05.3 1Q実績	04.3 1Q実績
海外売上高比率	72.8%	72.4%
設備投資 (資本的支出)	127 億円	85 億円
減価償却費	120 億円	123 億円
試験研究費	158 億円	141 億円
支払利息	15 億円	22 億円

# 参考情報 - 2



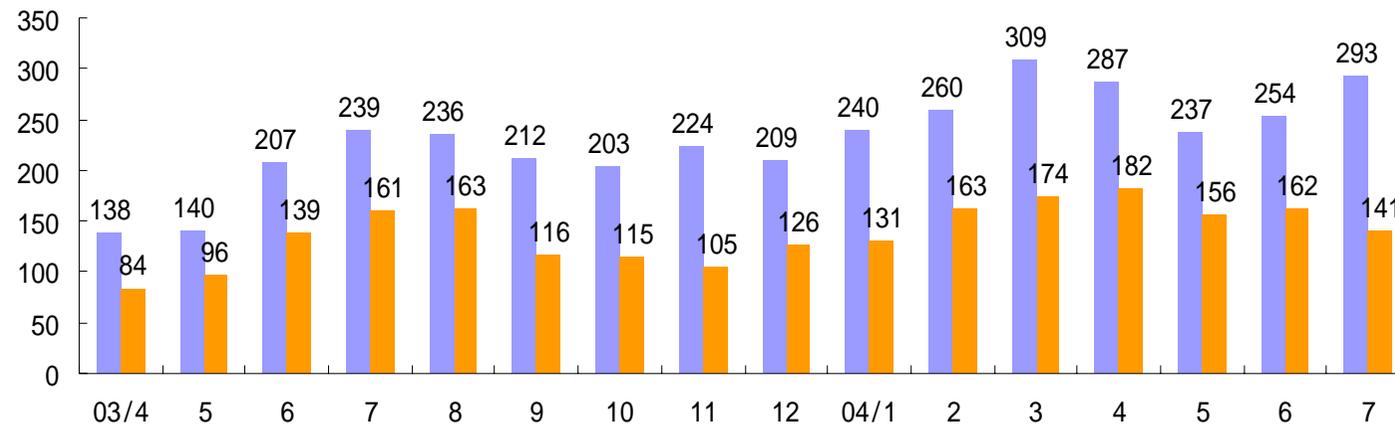
光ピックアップレンズ売上数量の推移(指数)

02年4月を100とした場合の指数



液晶TACフィルム売上数量の推移(指数)

02年4月を100とした場合の指数



TAC総量

薄膜及び高付加価値品